

施工説明書【施工される方へ】

お客さまにこの警報器を安全に正しくご使用いただくために、この施工説明書をよくお読みいただき、指定された取り付けを行ってください。

家庭用

快適環境おしらせ 住宅用火災(煙式)・CO警報器

自動試験機能付

型式名 SC-715T



1 お願いとご注意

- 警報器の取り付けは、この施工説明書に従って、指定された取り付けを行ってください。
- 取り付け終了後に、必ず動作確認を行ってください。万一、作動不良があったときは交換してください。外部機器と接続される場合は、外部機器の取扱説明書および設置工事説明書に基づいて動作確認を行ってください。
- 取り付け終了後に、「警報器の説明」「お客さまへの周知事項」について、必ずお客さまに説明してください。
- 取り付け前に必ずお読みいただき、お客さまや他の人々への危害や損害を未然に防止するために、必ずお守りください。
注意事項は、誤った取り扱いによる危害や損害の程度を、下記の表示で区分しています。

警告 作業を誤った場合に、取付作業者および使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意 作業を誤った場合に、取付作業者および使用者が傷害を負う場合または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

警告

- 分解や改造はしないでください。故障の原因となります。
- 取付期限を過ぎた警報器は、取り付けしないでください。正常に動作しないおそれがあります。取付期限は、警報器のセンサが十分な性能を発揮できる取り付けまでの期限であり、個装箱に記載してあります。
- 警報器の取り付け、取り外し、動作確認などを行うときは、安定した踏み台を使い十分注意してください。転落・転倒・落下によるケガのおそれがあります。
- 警報器を落下させるなど、衝撃を与えないでください。故障の原因となります。
- ライターの炎やタバコの煙などを使って、動作確認を行わないでください。火災や故障の原因となります。

注意

- 警報器の前に物を置いたり、取り付けたりしないでください。警報の遅れの原因となります。
- 引きひもを強く引いたり、引きひもにぶらさがらないでください。転倒や落下のおそれがあります。
- 付属の取付ねじなどを使用して確実に取り付けしてください。両面テープなどで取り付けると、落下によるケガやものが破損するおそれがあります。
- 警報器本体の取り付けは、確実に行ってください。落下によるケガやものが破損するおそれがあります。
- 警報器に耳を近づけて、警報音を聞かないでください。聴力障害などの原因になるおそれがあります。
- 正しい取付位置に取り付けてください。取り付けがはけない場所に取り付けると、警報の遅れ、誤作動、故障の原因となります。

2 取り付け前の確認

2-1 梱包部品の確認

梱包部品の種類と個数を確認してください。

本体…1 個	取付フック…1 個	
	石膏ボードピン…3 本	
	取付ねじ…1 本	
	引きひも (点検つまみ付) …1 本 (本体に取り付けられています)	
	取扱説明書 (保証書付) …… 1 冊	
	施工説明書 (本書) …… 1 冊	

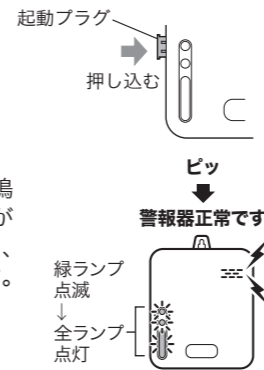
2-2 設置する前に

警報器本体・保証書への必要事項の記入

- ① 本体の交換期限記入欄に、交換期限を記入する。
- ② 付属の取扱説明書 (保証書付) にお取り付け年月日・お客さま情報・販売店 (実施者) 情報を記入する。

電源を入れる

起動プラグを押し込む。
(電源投入)



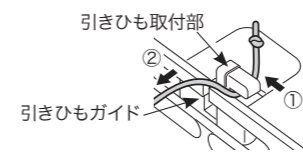
※ 起動プラグを押し込むと「ピッ」が鳴り、約30秒緑(お知らせ)ランプが点滅した後、全てのランプが点灯し、「警報器正常です」とお知らせします。

引きひもの取り付けかた・取り外しかた

引きひもは、警報器本体に取り付けられています。引きひもが外れてしまった場合は、正しく取り付けしてください。

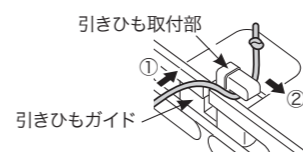
取り付けかた

引きひもを引きひも取付部に通した後、引きひもガイドに収める。



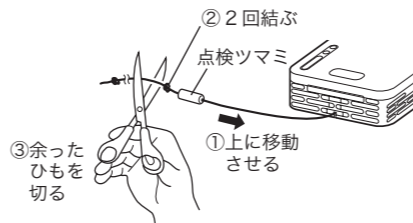
取り外しかた

引きひもを矢印方向に引く。



引きひもの長さの調節方法

- ① 点検つまみを上に移動させる。
- ② 適当な長さとなる部分で2回結ぶ。
- ③ 点検つまみの先の余ったひもを切る。



2-3 取付位置の確認

※ 設置および維持基準は、政省令で定める基準にしたがい、市町村条例で定められています。各市町村によって設置場所が異なる場合がありますので、各市町村が定める火災予防条例を確認してください。

設置場所は、お客さまとよく相談してお決めください。既存の警報器の取付位置に、新しい警報器を取り付ける場合についても、下記の正しい取付位置に取り付けられているかを確認してください。

注意

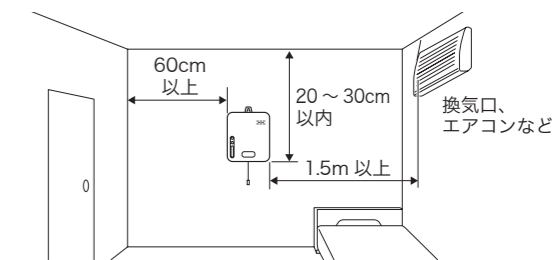
正しい取付位置に取り付けてください。取り付けがはけない場所に取り付けると、警報の遅れ、誤作動、故障の原因となります。

正しい取付場所について

- この警報器は、以下のような場所への設置をおすすめします。台所、居室、寝室、階段、廊下
- 警報器のスイッチ(点検、警報音停止兼用)が操作しやすく、ランプが見やすい位置に取り付けてください。

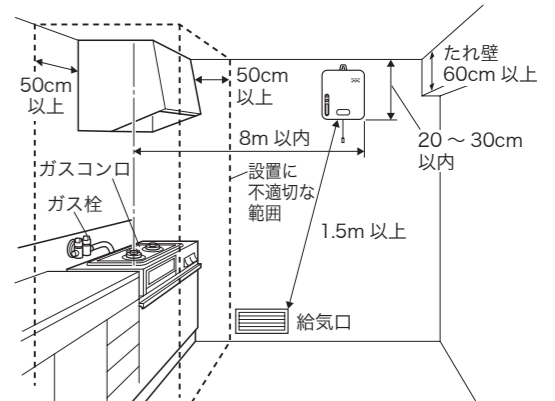
【居室に取り付ける場合】

■取付例

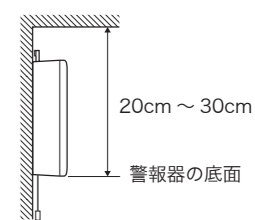


【台所に取り付ける場合】

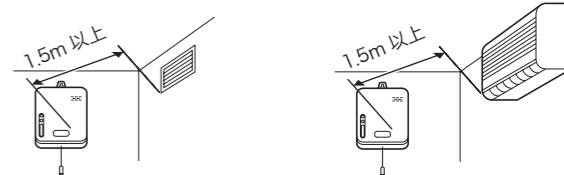
■取付例



- 警報器の底面から天井面までの距離が20~30cm以内の位置に取り付けてください。

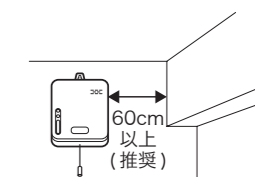


- 換気口など、空気の吹出口から1.5m以上離してください。

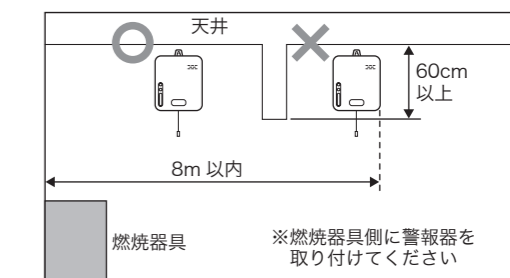


- COを検知しようとするガス機器(一定位置に固定しないで使用されるガス機器の場合はガス栓)から、水平距離で8m以内に取り付けてください。

- できるかぎりたれ壁やはりから60cm以上離してください。



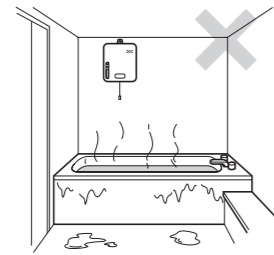
- 天井面が60cm以上の突出したたれ壁などによって区画される場合は、たれ壁より燃焼器具側に取り付けてください。



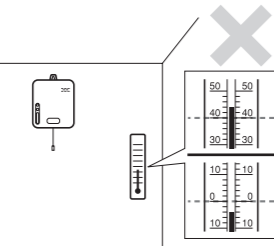
2-4 取り付けてはいけない場所について

以下の場所には、絶対に警報器を取り付けしないでください。警報の遅れ、誤作動、故障の原因となります。

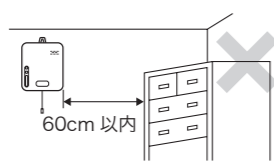
- 浴室内、水のかかる場所、水滴がつく場所、結露する場所。
感電や電氣的故障の原因になります。



- 温度が0℃～+40℃の範囲をこえる場所。
警報器としての機能を果たしません。また、誤作動の原因になります。

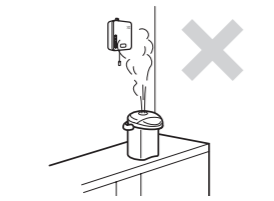


- タンスなどから60cm以内の場所。



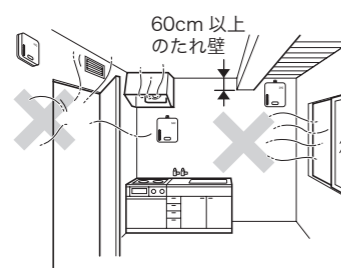
- ホコリや虫の多い場所。

- 火災以外の煙や蒸気がかかる場所、車庫など。

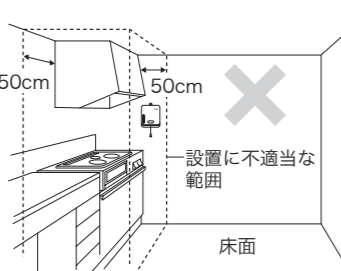


- 屋外。
屋内専用です。

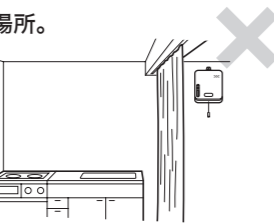
- 60cm以上のたれ壁で区切られている場所。
- 換気口、エアコンなどの吹出口に近い場所。
- 換気扇、扇風機、ドアの近くやすきま風の強いところなど空気の流れが激しい場所。
警報が遅れたり、検知できないことがあります。



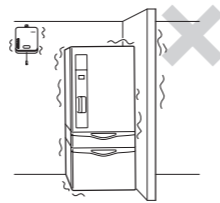
- レンジフードから50cm以内の場所。



- カーテンウォールなどで仕切られた場所。



- 振動、衝撃の激しい場所。
センサの故障の原因になります。



- 燃焼器具などの排気、湯気、油煙および調理用アルコールの蒸気が直接かかる場所。
センサ寿命が短くなったり、誤報の原因になります。



3 取り付けかた

⚠️ 注意

- 取付位置の材質・強度を確認し、土壁や強度の弱い合板には取り付けしないでください。
- 取り付けには、両面テープを使用しないでください。

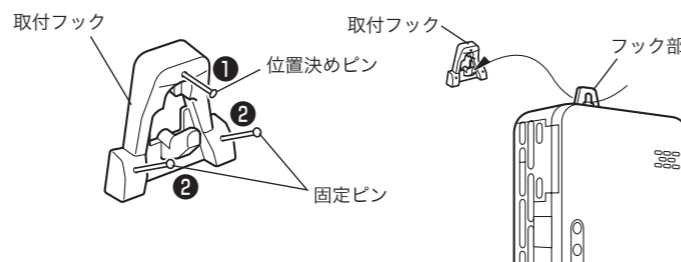
3-1 警報器の取り付け

■ 取付フックで取り付ける場合（石膏ボード壁専用）

⚠️ 注意

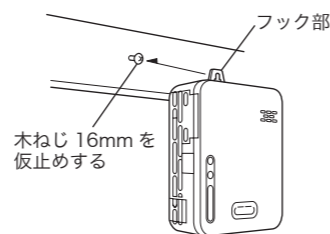
- ピンを指に刺さないように、取り扱いには十分注意してください。
- 取付フックにピンを差し込むときは穴が硬いので十分注意してください。
- 取付強度を保持するため、ピンは根元まで確実に打ち込んでください。
- 万一、ピンがゆるんだ場合は、取付位置をずらしてピンを付け直してください。

- 1 取付フックを壁面に押し当て、位置決めピンを垂直に打ち込む。
- 2 取付フックを垂直位置にした状態で、取付フックの固定ピン（左右2箇所）を斜めに打ち込んで固定する。
- 3 本体のフック部を、取付フックに引っ掛ける。



■ 木ねじで取り付ける場合

- 1 木ねじ（16mm）を途中までねじ込み、仮止めする。
※ コンクリート壁の場合は、市販のカールプラグを打ち込んで木ねじを使用してください。
- 2 仮止めした木ねじに、本体のフック部を引っ掛ける。
- 3 木ねじを締め付け、本体を固定する。

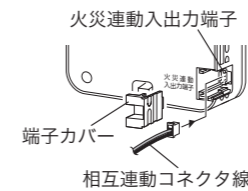


4 他の火災警報器との接続

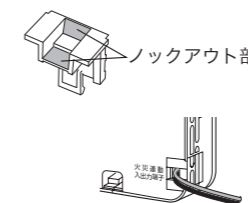
接続作業は、連動させる警報器の説明書も参照ください。
※火災警報出力は火災相互連動専用です。
※連動できる火災警報器は最大10台です。

接続ケーブルの取り付け

- 1 警報器側面の端子カバーを外す。
- 2 相互連動コネクタ線（別売品：型式名LL-01）を火災連動入出力端子に差し込む。



- 3 端子カバーのノックアウト部を切り欠いて、端子カバーを警報器に取り付ける。
- 4 「3 取り付けかた」に従って、警報器を壁面に取り付ける。



※ 警報器を取り付ける際は、相互連動コネクタ線が端子カバーに引っかからないように注意してください。

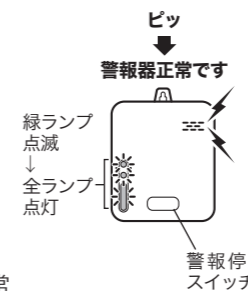
- ※ 線を延長する場合
推奨する電線…AE線：φ0.65mm以上、VCTF線：0.5mm²以上
延長可能距離…最大50m（最終端のSC-715Tから最終端の接続可能な火災警報器まで）

5 取り付け後の動作確認

⚠️ 警告

- ⊘ ライターの炎やタバコの煙などを使って、点検を行わないでください。
火災や故障の原因となります。

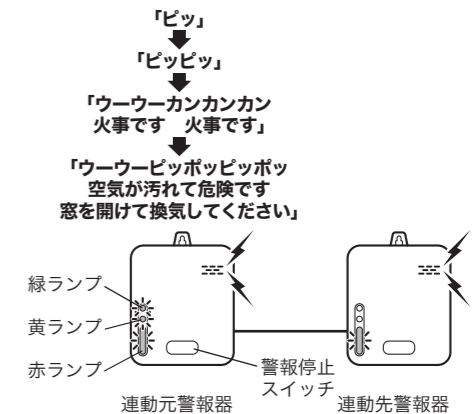
- 1 警報器が警報動作中や警報音停止中ではないことを確認する。
- 2 警報停止スイッチを約1秒操作する。
「ピッ」が鳴り、緑（お知らせ）ランプが点滅した後、全てのランプが点灯し、「警報器正常です」と鳴ると正常です。



- ◆ 以下の異常などがなければ確認できます。
- 煙検知部の異常 ● CO検知部の異常
- 電源異常

■ 火災連動点検

- 1 警報器が警報動作中や警報音停止中ではないことを確認する。
- 2 警報停止スイッチを約3秒操作する。
緑（お知らせ）ランプが点滅し、「ピッ」の後に「ピッピッ」と鳴ります。
- 3 警報停止スイッチから手を離す。
1) 赤（火災警報）ランプがスライド点灯し「ウーウーカンカンカン 火事です火事です」と鳴ります。
2) 黄（CO警報）ランプが点滅し「ウーウービッポッピッポッ 空気が汚れて危険です 窓を開けて換気してください」と鳴ります。
- 4 連動先の火災警報器も音声警報が鳴ることを確認する。
- 5 1分経過するまで待つか、警報停止スイッチを約1秒操作する。
※「ビー」と鳴り、終了します。
※連動先の住宅用火災警報器の音声警報が鳴りやみます。



6 お客さまへの説明について

警報器の取り付け、点検が終わったら、お客さまに以下の説明を行い、ご理解を得てください。

6-1 警報器の説明

- 1 警報動作および点検結果の説明。
- 2 取扱説明書を必ず読んでいただくことをお願い。
- 3 保証書および取扱説明書の保管をお願い。
- 4 取扱説明書に基づく主要な機能の説明と確認。
(取扱説明書「3. 警報器のお知らせ機能について」参照)
 1. 火災警報の内容（赤（火災警報）ランプ点灯、音声合成音の確認）と、警報時にとるべき処置の説明。
 2. CO警報の内容（黄（CO警報）ランプ点滅、音声合成音の確認）と、警報時にとるべき処置の説明。
 3. 部屋の外にいて、CO警報に気づいたときにとるべき処置の説明。
 4. 誤報が発生する原因と処置の説明。
 5. 下記機能の説明。
 - 機器故障音声機能
 - 電池切れ音声機能

6-2 お客さまへの周知事項

- 1 保証期間のお知らせ。
- 2 警報器の交換期限のお知らせ。（本体の交換期限記入欄に表示）
- 3 保証書を必ず読んで内容を理解した上で取り扱うこと。
- 4 警報器の移設禁止。（移設依頼の連絡先）
- 5 警報器の分解禁止。
- 6 引越時の処置。
- 7 故障・異常時の連絡先。
- 8 定期点検の実施。